

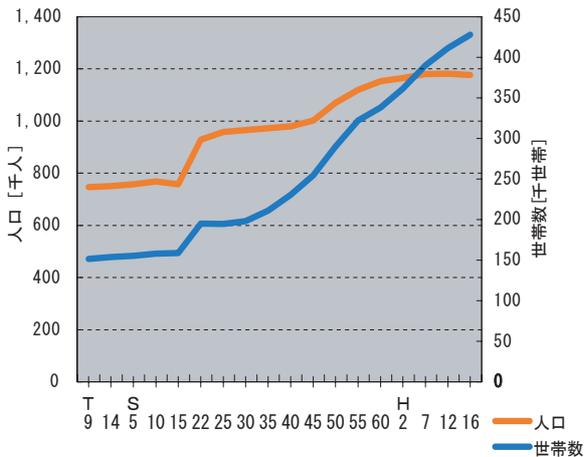
(住宅施策基本方針)

1 石川の住宅事情

1 人口・世帯

(1) 人口・世帯数の推移

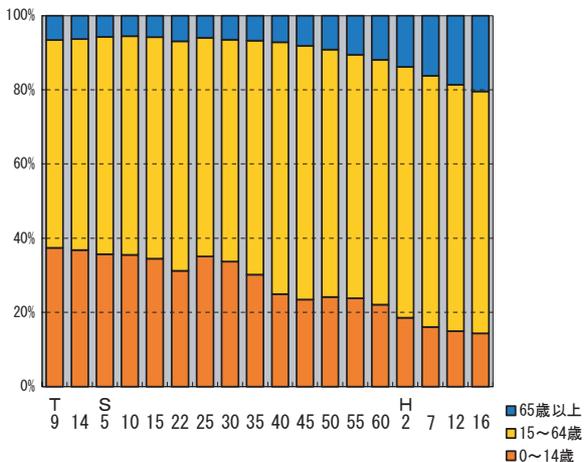
人口増加が鈍化する一方で世帯数は増加し、核家族化の傾向が表れている。
平成16年では一人あたりの人員が2.75人で、平成12年以降3人を割り込んでいる。



(出典：『国勢調査』、H16は『石川県の人口と世帯』)

(2) 年齢別人口割合

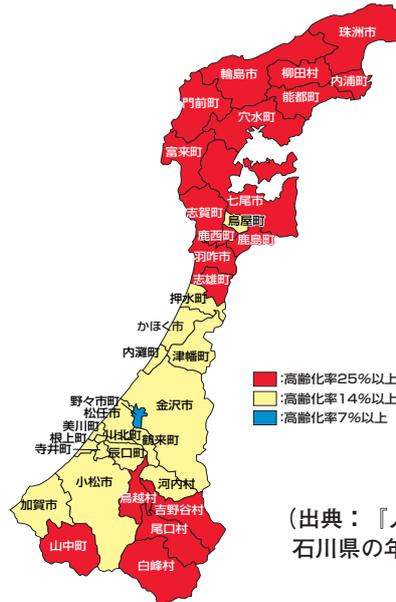
平成12年における高齢化率(65歳以上の人口比率)は、18.6%であり、平成7年より2.4ポイントの上昇である。さらに平成16年では20.3%で平成12年より1.7ポイント上昇し高齢化が続いている。



(出典：『国勢調査』、H16は『石川県の人口と世帯』)

(3) 市町村別高齢人口割合

平成12年の国勢調査において石川県の高齢化率は、全国平均より1.3ポイント高い18.6%である。
市町村別の高齢化率を見ると、県内約半数の市町村が25%以上となっている。



(出典：『人口・世帯-人口-石川県の年齢別推計人口』 H16.10.1現在)

2 住宅ストック

(1) 所有関係別住宅数

これまで6~10%の割合で増加してきた住宅数が平成15年に初めて5%を割込み、平成10年と比べて3.7%、14,300戸の増加に留まっている。

(上段：戸、全国；千戸、下段：%)

年	総数	持家	借家	借家		
				公共借家	民間借家	給与住宅
石川	282,700	217,900	64,800	12,300	42,700	9,900
昭和53年	100.0%	77.1%	22.9%	4.4%	15.1%	3.5%
昭和58年	310,900	234,000	76,700	10,800	54,400	11,500
昭和63年	330,900	239,400	88,700	14,500	64,600	9,600
平成5年	358,100	250,400	106,200	14,700	77,500	14,000
平成10年	389,700	265,000	120,100	12,200	92,600	15,300
平成15年	404,000	277,600	122,600	13,700	95,600	13,300
全国	46,836	28,657	17,161	3,078	12,613	1,471
平成15年	100.0%	61.2%	36.6%	6.6%	26.9%	3.1%

(出典：『H15住宅・土地統計調査』)

(2) 建築時期別住宅数

昭和56年の新耐震以前に建設され、何らかの耐震化が必要と思われる住宅は165,200戸、全体の約41%である。そして、その約90%は、木造住宅である。

建築時期	住宅総数		木造住宅※	
	戸数	割合	戸数	割合
合計	404,000	100.0%	297,800	100.0%
終戦時～S25	28,800	7.1%	28,500	9.6%
S26～S35	14,900	3.7%	14,500	4.9%
S36～S45	38,500	9.5%	34,800	11.7%
S46～S55	83,000	20.5%	69,300	23.3%
小計	165,200	40.9%	147,100	49.4%
S56～H 2	98,000	24.3%	67,600	22.7%
H 3～H12	110,200	27.3%	69,200	23.2%
H13～H15	23,800	5.9%	13,900	4.7%

※木造+防火木造

(出典：『H15 住宅・土地統計調査』)

(3) 建築構造別住宅数

構造別に住宅数を見ると、木造住宅の割合が減少し、鉄骨や鉄筋コンクリート造の非木造住宅の割合が増加している。

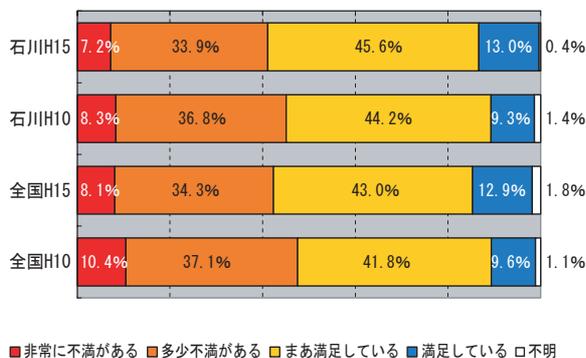
(上段:戸、全国;千戸、下段:%)

年	総数	木造	鉄骨・鉄筋 コンクリート	鉄骨造等 ブロック造等
石川	330,900	276,800	51,000	3,200
昭和63年	100.0%	83.7%	15.4%	1.0%
平成5年	358,100	282,100	68,700	7,400
平成10年	389,700	295,800	89,900	4,000
平成15年	404,400	302,000	82,500	19,400
富山	355,700	282,700	57,100	16,000
平成15年	100.0%	79.5%	16.1%	4.5%
福井	252,700	197,100	39,900	15,500
平成15年	100.0%	78.0%	15.8%	6.1%
全国	46,836	28,739	14,939	3,159
平成15年	100.0%	61.4%	31.9%	6.7%

(出典：『H15 住宅・土地統計調査』)

(4) 住宅及び住環境に対する総合評価

住宅に対する評価は、「非常に不満」「多少不満」の合計である不満率が41.1%と、前回調査(平成10年)より4.0ポイント減少している。

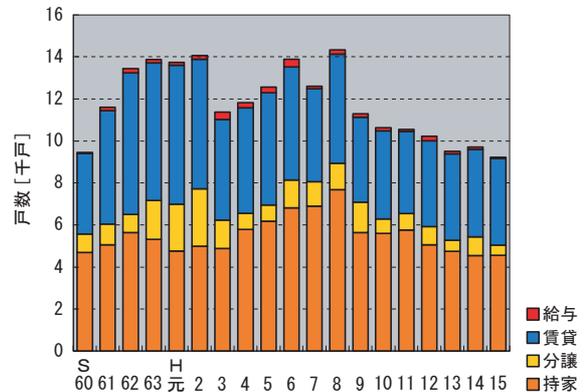


(出典：『H15 住宅需要実態調査』)

3 住宅建設の動向

(1) 利用関係別着工戸数

新設住宅の着工戸数が、バブル期及び平成6、8年頃に約14,000戸だったが、平成13年より10,000戸を割り込んでいる。

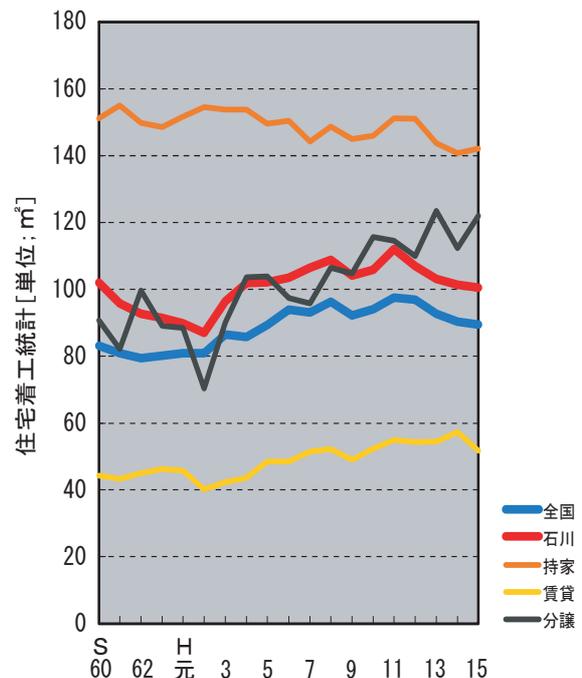


(出典：『建築統計年報』)

(2) 着工新設住宅床面積の推移

県全体では昭和61年度に100㎡を割り込んだが、平成4年度以降は100㎡台を維持している。全国平均と比べ概ね10㎡程度上回っている。

分譲系床面積は、平成4年度に100㎡を超えてから順調に推移し、平成15年度には、122㎡にまで増加した。



(出典：『建築統計年報』)